

[シラス]

1. 経年経過及び平成17年1～3月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の6,060トン进行ピークに減少傾向を示しており、平成14年は1,106トン、平成15年は低調であった前年並みの937トンでした。志布志湾海域では平成12年の1,407トン进行ピークに減少傾向を示しており、平成14年は396トンまで減少したが、平成15年は842トンまで増加した。

今期の西薩海域では、カタクチイワシシラス主体で255.2トンの水揚げで、前年の124%、平年の120%でした。志布志湾海域（1～2月）では、カタクチシラス主体で28.2トンの水揚げで、前年の106%、平年の79%でした。

2. 平成17年4～6月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域で、平年を上回って、前年並みもしくは上回り、志布志湾海域では前年を下回り平年並みでしょう。

（根拠）

西薩海域ではカタクチイワシ親魚の来遊が、本年1月以降、北西薩海域を中心に好調に推移していること、平成17年3月に実施した卵稚仔調査結果（3月1日～4日）から、カタクチイワシの卵や稚仔魚の分布が、近年では高水準であったことなどから、好調に推移すると考えられます。志布志湾海域では、今後の親魚の来遊を注視する必要があると思われま

す。なお、マイワシシラスは、親魚資源が全国的に低水準であり、卵稚仔調査においても採集がなく、資源回復の兆候がみられないことから、漁獲は期待できないと考えられます。

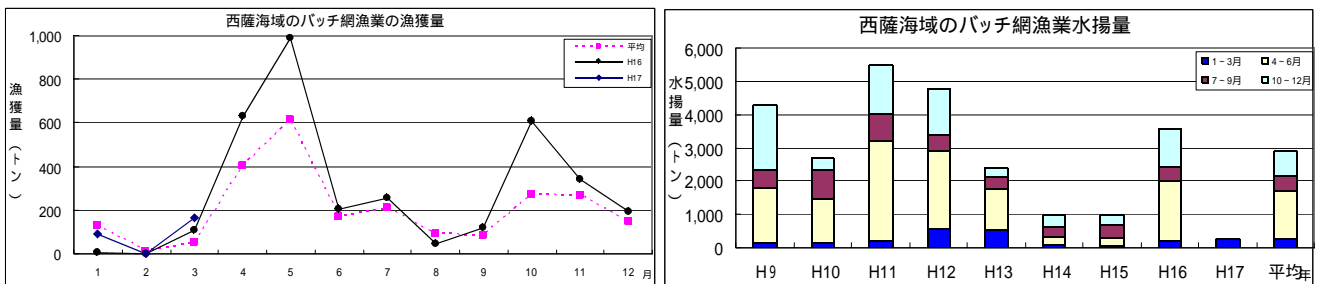


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年(平成12～16年)の平均値、平成17年3月までの水揚量を使用。

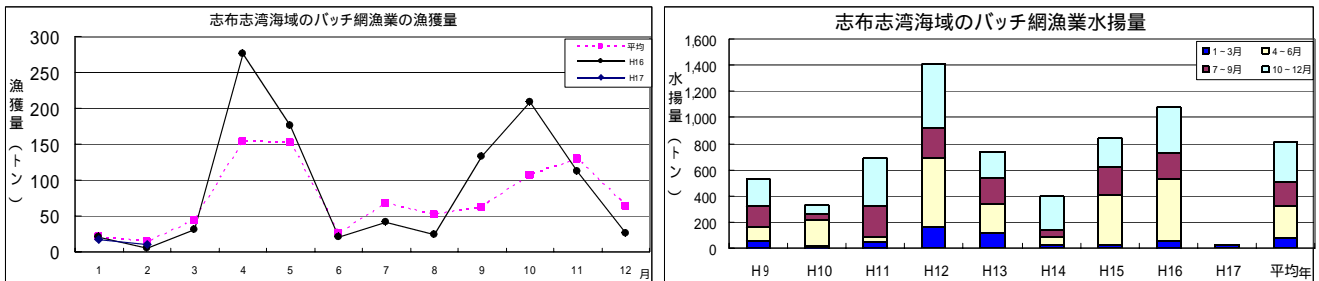


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成12～16年)の平均値、平成17年2月までの水揚量を使用。